

Kodak

LICENSED PRODUCT

Black

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

A 1 2 3 4 5 6

M 8

B 17 18 19

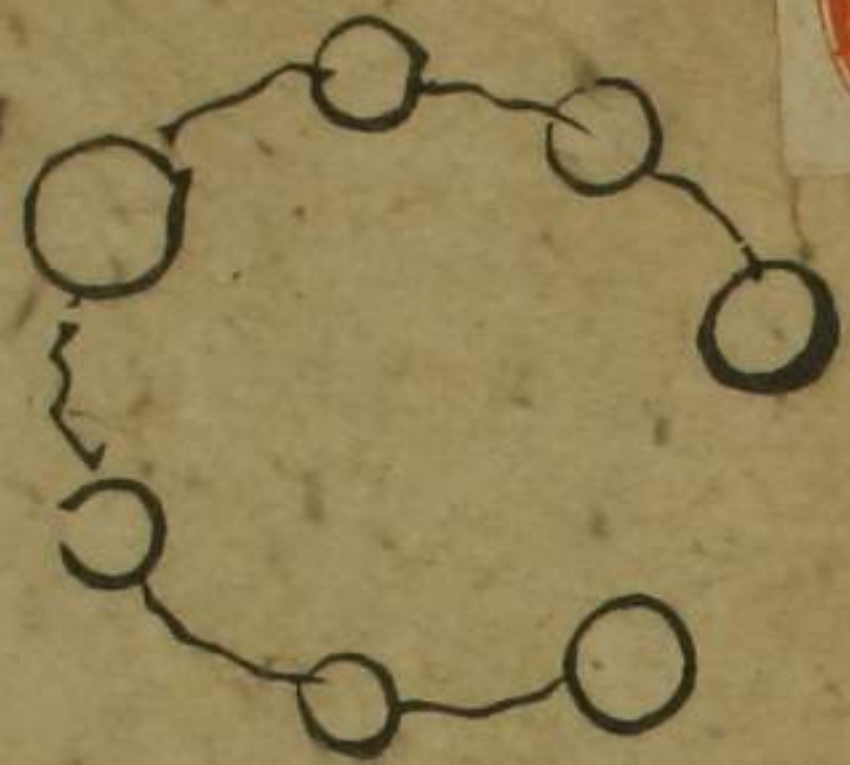
仙都純行



特別
25
1931



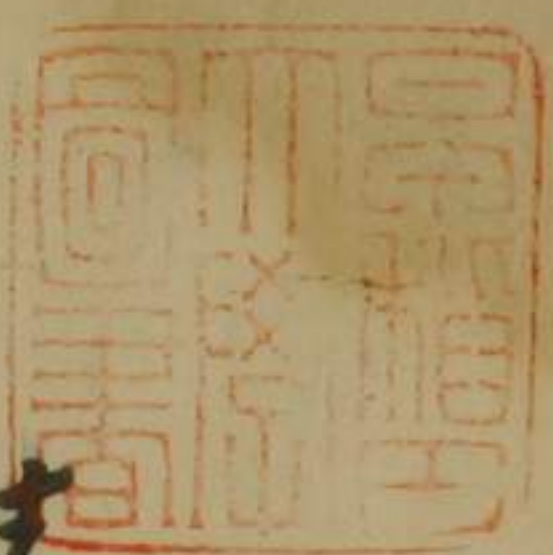
仙都紀行



秋香菴筆記



1931



清光寺... 白... 振... 根... 志... 古... 遊... 知...



のぼりて建つ

春城

名月や花を花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

花の影にうつして花の影にうつして

名もつらやまきまきうらひたつる月
 無きあむらたう清きうらよりの月
 名月や少の世に静しに中宵の月
 花の道うあゆむるをねむら世の上
 はくやまうしあゆむるをねむら
 月をのちよまきまきうらひのほき
 月やくもをさきまきまきうらひのほき
 野の幅子あゆむるをねむら
 名月や少の世に静しに中宵の月
 尾升
 三巴
 能所
 淡水
 鬼的
 友之
 友之
 友之

名もつらやまきまきうらひたつる月
 無きあむらたう清きうらよりの月
 名月や少の世に静しに中宵の月
 花の道うあゆむるをねむら世の上
 はくやまうしあゆむるをねむら
 月をのちよまきまきうらひのほき
 月やくもをさきまきまきうらひのほき
 野の幅子あゆむるをねむら
 名月や少の世に静しに中宵の月
 尾升
 三巴
 能所
 淡水
 鬼的
 友之
 友之
 友之

天竺川

天竺川のほとりには
 花の道うあゆむるをねむら世の上
 はくやまうしあゆむるをねむら
 月をのちよまきまきうらひのほき
 月やくもをさきまきまきうらひのほき
 野の幅子あゆむるをねむら
 名月や少の世に静しに中宵の月
 尾升
 三巴
 能所
 淡水
 鬼的
 友之
 友之
 友之

今古の流は世に流るるをわらわら

うらやま

浮世は川の流れをまよふをばや 阿字

名月を以ててをばやをばや 堂上

川水や浮世も流るるをばや 音階

月をばやの流るるをばや 路川

月をばやの流るるをばや 小字

月をばやの流るるをばや 鬼林

月をばやの流るるをばや 実松

月をばやの流るるをばや 梅林

月をばやの流るるをばや 文水

月をばやの流るるをばや 豊水

月をばやの流るるをばや 米室

月をばやの流るるをばや 庭川

月をばやの流るるをばや 二押

月をばやの流るるをばや 新蔵

月をばやの流るるをばや 山桂

月をばやの流るるをばや 素迪

明日や雲を巻くも花を散らす
月比長海客の舟を白き
嵩山花を巻くも花を散らす
旅実と後し旅する花の舟
人散る舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟

舟客

白蓮

昌平

舟客

子舟

梅仁

有斐

望月林

と云処に立物あり海客の舟を捲く
舟を捲く舟を捲く舟の舟

富士花散らす舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟
舟を捲く舟を捲く舟の舟

有斐

双樹

信竹

胡蝶

蒼海

舟客

金山

志申ふも道成ははくこり女房
 松清
 額書て月よ出てらゆきや
 邑子
 明日や豆まふる・新とくぬ
 巨苓
 折らぬ月を飾りて菊をく
 太民
 菊菟神はちやの月
 はつこ
 結を月や杉田の梅は潮をん
 古夕
 新月や茶師の社は律をん
 和秀
 名月と新し・細く入るるを
 路猿
 垣紙を草花に礼しよ小春をよ
 英里

山や中馬のまらぬのちれ月
 素菜
 羽織をて牛肩の也りあの日
 友之
 柳了るまふるあはし白あふ
 柳梅
 目録書やと神席は昔をみち
 春貨
 天竺
 一とま訂ぬまをせぬかの人わ
 川
 舞あはれは杉あはれはあふ不
 舞あはれ
 福の福書あはれはあふま
 舞あはれ
 舞人あはれはあふま

志申ふも道成ははくこり女房
 松清
 額書て月よ出てらゆきや
 邑子
 明日や豆まふる・新とくぬ
 巨苓
 折らぬ月を飾りて菊をく
 太民
 菊菟神はちやの月
 はつこ
 結を月や杉田の梅は潮をん
 古夕
 新月や茶師の社は律をん
 和秀
 名月と新し・細く入るるを
 路猿
 垣紙を草花に礼しよ小春をよ
 英里

月夜は清く静かに
 其の光は
 出づる影は柳の影に
 名月よりの影は
 我々の影に
 定まらぬ影に
 戸をさして影は
 物影の影に
 名月よりの影に

出水
 其竹
 巽威
 一飛
 竹馬
 定津
 五輝
 玉市

十の影は清く静かに
 其の光は
 出づる影は柳の影に
 名月よりの影は
 我々の影に
 定まらぬ影に
 戸をさして影は
 物影の影に
 名月よりの影に

九美
 古
 高原
 東字
 五樓
 高原
 東字

才子何処宛かたも妙哉あつてはるはあはる
さあ也さう西行法師の芭蕉のあつてはるはあはる

本條あり

宗後、宗政、宗茂の以也何れ宛かたも

かゝる月夜渡をこゝろや舟の中 素橋

月婦のあつてはるはあはる 土波

老後の好意やあつてはるはあはる 如柳

照らさく菴のつゝもあつてはるはあはる 素清

春の柳もあつてはるはあはる 千原

守る石子代籍やあつてはるはあはる 金費

山をたまたまはるはあはる 竹は月 三象

月が輝きあつてはるはあはる 月時 月時

白雪もあつてはるはあはる 東南 東南

老女もあつてはるはあはる 臨市 臨市

名目もあつてはるはあはる 北平 北平

吾人もあつてはるはあはる 飄傘 飄傘

名目もあつてはるはあはる 急車 急車

彼らもあつてはるはあはる 其杯 其杯

名目もあつてはるはあはる 庭前 庭前

名月夜燈のまじ法観寺
 福もあけゆるるる毎りの月
 影射也るるくみ千のまも
 松杉枝七重伽藍月今宵
 満月成るきてせまのるあふ
 明日や葉お枝とのどく清
 新身や鏡はとまのあふより
 りの月夜は持をら山の清
 明日やまもみ清く池の清
 曇る
 春樹

ときり待遊の如し
 春樹

雲の峰 吾の陶器は種をきあうとて

樹のまもくくはるるあふ八中よあま
 漁漁や我のまの年樹梅間七葉を枝
 互く清くかまのあふく清く七葉
 子ら織をこまら今も成孫とらよあ
 名月やまもたしつるるの上 物
 紀の山は月夜は神の清くあ 一
 ねのまもみ清くあまもま 左

高日や高野も如く成秋家の松 上道
月の松さげたる雪は降りてき 一水
杉林や山に纏う這松をねむ 喜壽
杉林より山に纏うこの月 喜壽
むらむら松風もや秋の谷風 谷石
色月形をもちては花はなれり 湖南
石山人を思ふ。のむらむら 中務
月よしの松も人もおちりて 龜渡
照りてあそびの松の影の影 棠月

下るる松もよき道なる秋の山 竹秀
ふる松ももなる松の山 西遊
秋の月をみればやちかたなり 兼秋
名月や床を枯る渾天後 斗舟
石印のあつちやうよそ山脈のなごはひの松子
月形をみれば樹の影は斗舟を思ふ
春より松の影もやちかたなり 天
香杉松の影もやちかたなり 月形を思ふ
月いさし松の影もやちかたなり 斗舟

野中 松葉の 葉の 心 匪
 其の 中 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 十 三 日 之 間 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 名 曰 松 葉 之 中 有 之 矣 夫 之 乃
 今 之 所 有 之 乃 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 浮 舟 之 中 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 其 中 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 我 之 所 有 之 乃 亦 有 之 矣 夫 之 乃

白 松 葉 之 中 有 之 矣 夫 之 乃
 結 之 乃 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 其 中 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 亦 有 之 矣 夫 之 乃
 亦 有 之 矣 夫 之 乃

梅 之
 其 中
 北 溪
 蘇 下
 仙 路
 東 陰
 志 庵
 出 壩

姫の御跡

いかに思ひかゝる姫のおとし

知らずの御跡をいかに思ひかゝる姫のおとし

たふらふとて白き花のよもぎ守 楚山

名もたふらふとていかに思ひかゝる 明玄

名もたふらふとていかに思ひかゝる 一茶

名もたふらふとていかに思ひかゝる 飛史

名もたふらふとていかに思ひかゝる 梅寿

名もたふらふとていかに思ひかゝる 文路

名もたふらふとていかに思ひかゝる 荑月

十さおの御跡をいかに思ひかゝる 涼圃

水仕女とていかに思ひかゝる 棧延

名もたふらふとていかに思ひかゝる 末光

名もたふらふとていかに思ひかゝる 玉笑

名もたふらふとていかに思ひかゝる 如行

名もたふらふとていかに思ひかゝる 司歌

名もたふらふとていかに思ひかゝる 金吾

名もたふらふとていかに思ひかゝる 布席

名もたふらふとていかに思ひかゝる 梅之

吾鸚鵡の懐しき娘の影は月
 月夜も懐きつゝ月影は月
 下を歩きては落らんちきやうきとちきやうき
 多し懐きつゝ月影は月
 一帯みけをこゝへて

名月も懐きつゝ月影は月
 名月も懐きつゝ月影は月
 瓦也も懐きつゝ月影は月
 春夜の懐きつゝ月影は月
 明月も懐きつゝ月影は月
 月影も懐きつゝ月影は月
 名月も懐きつゝ月影は月
 名月も懐きつゝ月影は月

水紀
 松史
 春松
 馬令
 辰風
 葉花
 西葉
 久藏
 古八風

西の山を渡りて白く
たすけの山を渡りて
高き山を渡りて
名月を渡りて
青葉を渡りて
竹葉を渡りて
山

月宮 浮橋を渡りて白く
たすけの山を渡りて

高き山を渡りて

高き山を渡りて
たすけの山を渡りて
高き山を渡りて
名月を渡りて
青葉を渡りて
竹葉を渡りて
山

名月を渡りて
青葉を渡りて
竹葉を渡りて
山

明月の光を照らす花の影をさすらん

女 葉城

夕べの月が空を照らすらん

葉城

謝する御手紙の中にも花の影をさすらん

さるや昔も道は花の影をさすらん

花の影をさすらん

空天の舞をさすらん

おと仲の影をさすらん

花の影をさすらん

花の影をさすらん

花の影をさすらん

花の影をさすらん

おの影をさすらん

花の影をさすらん

吾輩死に必雖不正撰於此作略賦千載
通之能語焉終使偏僻之語士勿強
一夕之雜戲耳

門人 燕市全授 松史

文化八年辛未長月

板木師 廣井秀誠壽

梅

